

こどもの病気対策法⑩⑥

―夜間のこどもの頭痛―

大分大学客員教授 是松聖悟

今年度、ご家庭に配布している「こどもの病気とその対策法」フロッピーチャート」の改訂作業をしています。今回は夜間のこどもの頭痛です。頭が急に痛くなり、激しく泣いたりすると、保護者の方は驚き、何か脳に悪いことが起きているのではないかと心配になると思います。ただ、こどもの急な頭痛の多くは心配いらないものですので、冷静に対処しましょう。

2・3日以内に頭を打ったなどの覚えがあれば、それともとで脳内出血が始まっていることもあり。多くは吐き気を伴いますので、吐き気がなければ大丈夫のことが多いですが、念のため、こども救急電話相談（#8000）に問い合わせをしましょう。頭を打った覚えがなくても、吐き気がある場合は、何か脳で起きている可能性が否定できませんので、（#8000）に問い合わせてください。

頭を打ったこともなく、吐き気もない場合は、発熱時に

備えている解熱薬の飲み薬や座薬を入れてください。「熱もないのになぜ熱さましを使うのか？」と疑問を感じるかもしれません。解熱薬と痛み止めは同じなのです。ですから、熱がなくても熱さましを痛み止めとして使つて構いません。慌てて夜間救急に駆け込んで、同じ薬をもらうことになると思います。多くのこどもが、それで眠れるようになると思います。

熱さましを使つても痛みが改善しない場合は、（#8000）に問い合わせてください。朝まで眠ることができても、それは一時的な効果かもしれませんので、翌朝、病院やクリニックを受診しましょう。

ただし、フロッピーチャートはあくまで目安です。心配な場合は、（#8000）に相談ください。



夜間のこどもの頭痛 フローチャート

